

重要課題特定プロセス

帝人グループは、社会課題を幅広く把握・整理し、帝人グループにおける重要度とステークホルダーへの影響度の観点から重要課題の分析・抽出を行い、サステナビリティ管掌（当時）が外部有識者と対話した上、最終的には経営会議で帝人グループの重要課題を特定しています。

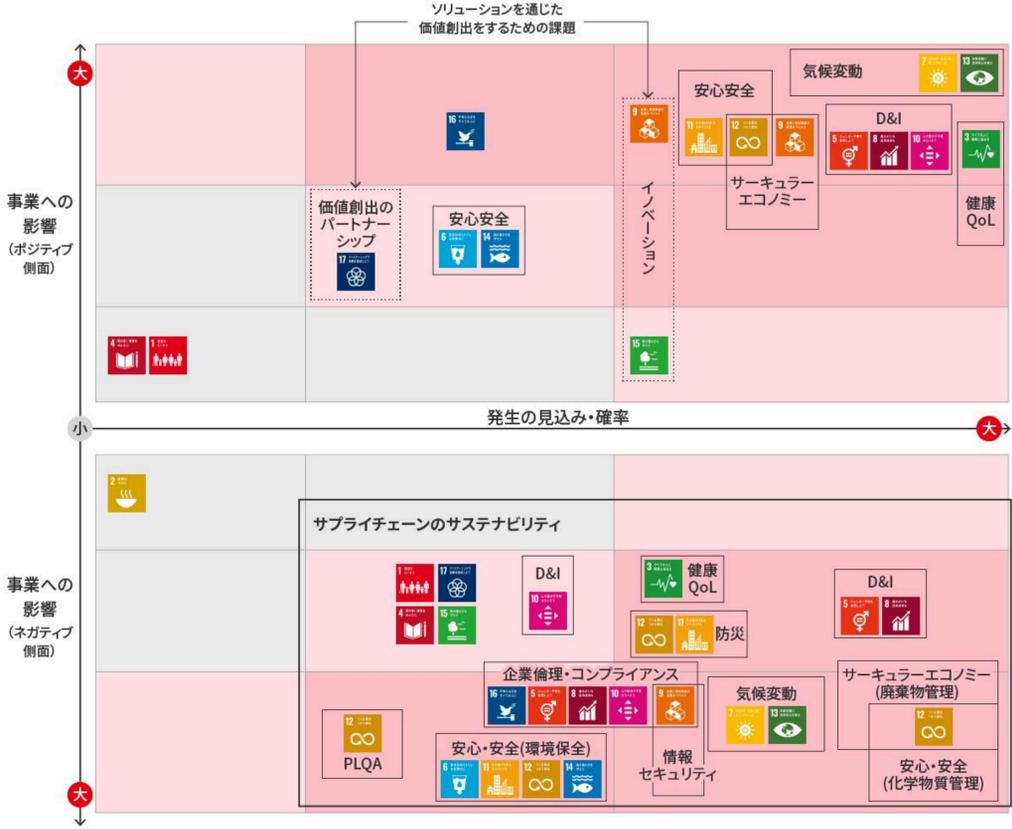


STEP1 課題把握・整理

SDGsをはじめとする社会における課題のトレンドを広く把握、整理

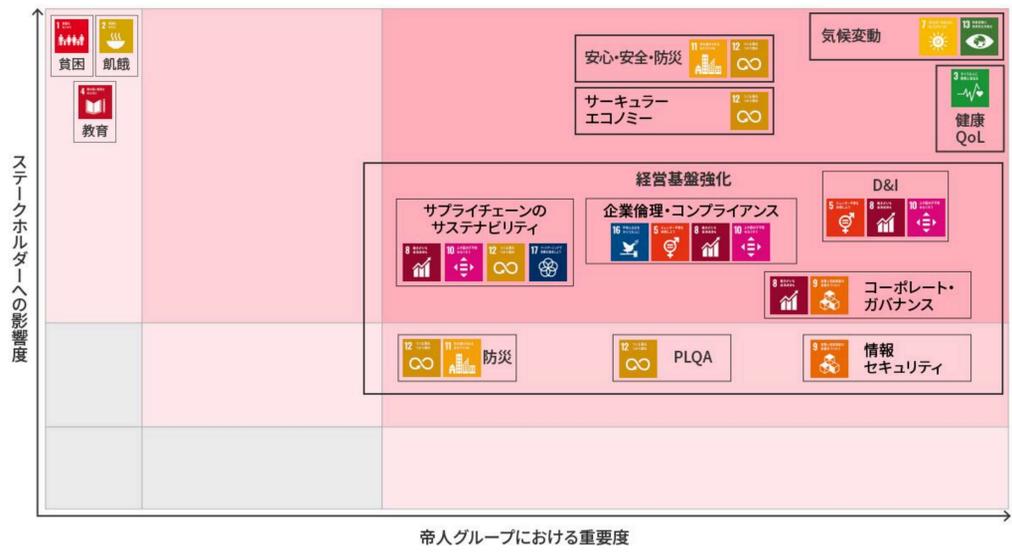
STEP2 重要度判定

事業への影響度（ポジティブ側面・ネガティブ側面の双方を考慮）と、発生の見込み・確率の両面から、帝人グループにおける重要度を判定



STEP3 重要課題抽出

STEP2で分析した課題群から、帝人グループにおける重要度とステークホルダーへの影響度が特に高い課題を重要課題として抽出



STEP4 外部有識者とのダイアログ

帝人グループの重要課題の特定プロセスと抽出課題について、外部有識者と対話を実施



「事業領域とソリューションの連動が企業価値を高める」

SDGsを軸にマテリアリティを整理するにあたり、それぞれの事業活動の結果として3つのソリューションがあり、それがどう社会に貢献するのを見せられると、ストーリー性が高まると考えます。また、ひとつの素材や事業を、複数のソリューションにオーバーラップさせることで、より広い範囲で企業価値を高めることができるのではないのでしょうか。SDGsに対応することでどんなビジネスチャンスが生まれるのか、社員一人ひとりが理解することも重要だと考えます。

富田 秀実氏

ロイドレジスタージャパン株式会社 取締役 事業開発部門長
(2019年10月当時)



「次の100年に向けて、未来からのバックキャストが重要」

長期投資家の立場から見ると、企業がESGやSDGsに取り組む意味は、長期的・持続的な価値創造のためであるといえます。既存事業の積み重ねと未来に対するコミットメントからの逆算が重要です。「何をすべきか」だけでなく、「なぜそうするか」を考え、次の100年を描いた上でバックキャストも進めてほしいと思います。事業環境の変化を捉え、これまでの成功体験の外にどれだけセンサーを張れるかも今後ますます重要になるでしょう。

洪澤 健氏

コモンス投信株式会社 取締役会長
(2019年10月当時)



「気候変動に対する長期的な価値創造を期待」

TCFDへの支持表明は短期的視点でも評価できます。一方、ビジョンや戦略の策定においてはより長期的の視点を持ち、創業150年後のありたい姿からバックキャストする形で2030年の目標を定めると良いでしょう。企業トップが方向性を示すことで、CO2などを削減するためにどうすべきか、社員からもさまざまなアイデアが出ると思います。企業として生き残っていくためには、気候変動に対しても価値創造の観点から考え、取り組むことが重要です。

後藤 敏彦氏

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンボードメンバー
NPO法人サステナビリティ日本フォーラム代表理事
(2019年10月当時)

STEP5 重要課題の特定

経営会議において審議・確認し、「帝人グループの重要課題」を特定。2019年12月の経営会議において、現在の5つの重要課題を特定しました。